

会 議 記 録

会議名称	第2回 杉並区基本構想審議会
日 時	平成23年1月21日(金)午後5時58分～午後8時28分
場 所	中棟6階 第4会議室
出席者	<p>委員 今井、今村、宇田川、北原、京極、佐藤、柴田、高橋(新)、高橋(英)、高橋(博)、土屋、手塚、内藤、波部、舩越、古屋、前田、松原、若林、岩田、大泉、小川、小松、島田、鈴木、藤本、池田、伊藤、牛山、奥、古谷野、竹内、日端、藤井、三輪</p> <p>区側 副区長、副区長、教育長、政策経営部長、政策法務担当部長、行政管理担当部長、区長室長、危機管理室長、区民生活部長、保健福祉部長、高齢者担当部長、子ども家庭担当部長、都市整備部長、まちづくり担当部長、土木担当部長、環境清掃部長、会計管理室長、教育委員会事務局次長、教育改革担当部長、中央図書館長、済美教育センター所長、企画課長、区民生活部管理課長、保健福祉部管理課長、都市計画課長、環境課長、教育委員会事務局庶務課長、財政課長、行政改革担当副参事</p>
配付資料	資料1 第1回杉並区基本構想審議会 委員意見の概要(要約) 資料2 変わりゆく東京と杉並 人口・土地利用の趨勢予測 資料3 変わりゆく東京と杉並(概要) 資料4 区民アンケート実施結果について 資料5 職員アンケート実施結果について 資料6 部会の設置について(案)
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 変わりゆく東京と杉並 人口・土地利用の趨勢予測 (2) 区民アンケート実施結果について (3) 部会の設置について 3 次回の審議会について 4 閉会

会長 それでは、第2回の杉並区の基本構想審議会をこれから始めたいと思います。

まず、本日は、議事に入る前に、前回ご欠席された3名の委員の方がおいででございますので、まず、その3名の方から一言お話をいただきたいと思います。恐縮ですが、お願いいたします。

委員 初めまして。前回、都合で出席できませんで、申しわけございませんでした。

こども教育宝仙大学の池田祥子と申します。大学があるのも中野区中野坂上ですし、住んでいるのも中野区で、お隣ですと眺めながら暮らしてきた人間です。ただ、杉並区さんと関係ができたのは、こども教育宝仙大学の前に勤めていたのが、杉並区堀ノ内にあります東京立正短大でした。そのときに、大学のコンソーシアムで、杉並区でやっていることにかかわったりしていた関係がありましたのと、その後、杉並区の待機児童が新聞にも出まして、待機児童の解消ということで、新しい認可保育園や認証保育園、杉並区の保育室の開室などで、業者の選定などの業務に協力させていただいてきましたので、そのご縁で、今回ここに座らせていただくことになったと思います。よろしく申し上げます。

会長 どうも、先生、ありがとうございました。

続いて、一言お話をいただきたく、申し上げます。

委員 高千穂大学の藤井でございます。前回は、公務の都合上、出席することができませんでした。申しわけございませんでした。

なお、まず、日ごろ、区長を初めとする区行政機関の皆様方、また、区関係各位におかれましては、本学の学生及び園児等々、さまざまな意味でご配慮あるいはご支援をいただいておりますことを、まず、この場をもってお礼を申し上げたいと思います。

私自身、どのようなことでこの基本構想審議会の中で尽力できるかどうかわかりませんが、今まで、例えばこの会にもいらっしゃいます委員の方とは、地域振興あるいは空き店舗、あるいは地域の産業振興の問題等々かかわってまいりました。そんな若干の経験も含めまして、ご一緒にお仕事といいましょうか、参画させていただければと思ひまして、本日、この場におります。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

会長 先生、どうもありがとうございました。

それでは、最後になりますが、お願いいたします。

委員 前回は、私の仕事の都合で欠席させていただきました。申しわけありません。三輪といいます。現在、お茶の水女子大学というところで、生涯学習、社会教育を教える立

場にあります。

杉並区とのつながりですけども、今、杉並区立沓掛小学校の運営協議会にかかわっております。学校と地域の連携の仕事にかかわっています。また、その沓掛小学校に子ども2人がお世話になっているということで、杉並区の学校の現場などを踏まえながら、専門の社会教育、生涯学習について何か意見が言えればなというふうに思っています。よろしくお願いたします。

会長 どうも、先生、ありがとうございました。

3人の委員の皆様からごあいさついただきましたが、引き続き、ぜひ、積極的なご発言をいただければありがたいと思っております。

最初に、配付資料の確認を事務局からお願いします。

企画課長 配付資料の確認ですけども、まずレジュメがございます。このレジュメの下に配付資料の一覧が記載してございますけれども、委員の皆様には参考に席次表もお配りさせていただきました。

そして、それ以降、資料1、これは前回の議論の主な意見の整理ということでまとめたものでございます。幾つかの、カテゴリーで主な意見を整理させていただきました。本日の会議におきましても、さまざま出された意見を、また同じような形で整理をして、今後の課題の整理につなげていきたいと、かように考えているところでございます。

資料2は、これは事前にお送り申し上げました。本日、後ほど説明させていただきます、人口と土地利用の趨勢の予測の本編でございます。

続いて、資料3ですけども、その資料2の本編の概要版ということで、本日の後ほどの説明では、主にこの資料3の概要版を使って、説明を申し上げたいと存じてございます。

資料4がこの間行ってきました基本構想の策定に係る区民アンケートということで、かなりたくさんの方をいただきました。その結果につきまして、後ほどご報告をさせていただくものでございます。

資料5が、並行して行った職員アンケートの実施結果、そして、資料6が、後ほどお諮りする部会の設置の関係の資料でございます。

なお、最後に、委員の皆様には前回の会議記録をお配りしてございます。これにつきましては、この間ご確認いただきまして、私ども事務局の方で整理をさせていただきましたけれども、来週早々には公式ホームページ等でアップして、公表していきたいと思っております。

なお、その際、委員の皆様へ本日お配りしておりますこの会議録には、発言者のお名前がすべて記載されておりますが、ホームページ等での公表に当たりましては、これは杉並区の取り扱いとして、自己紹介の部分を除きまして、委員名については、単に「委員」という形で、記載していくこととなりますので、よろしくご承知おきをいただきたいと思います。

資料の確認は以上でございます。

会長 ありがとうございます。

本日は、大きい話題は、5,000人、すごい量の区民の皆様からアンケートをいただいておりますので、これは十分に説明を聞きながら、皆様のご意見を伺えればと思います。これが一番大きいと思いますが。

それからもう一つは、杉並区と23区のほかの区が、一体どういう相対的な関係にあるかということが、割合大きい話題になるかと思っております。

この二つが本日の主な議題でございますが、最後に、できましたら、前回と同じように、全員の皆様から一言でもご返事いただくというふうにできたらと思います。ちょっと、時間が長くなるかもしれませんが、ご辛抱願いたいです。

それで、最後に部会をつくるのですね。本日、部会をつくる説明が事務局からありますので、それを聞いて終わりです。

それでは、資料説明を事務局からお願いします。

企画課長 それでは、資料3でございます。「変わりゆく東京と杉並」と題しました、この間の傾向を踏まえた人口・土地利用の趨勢の予測ということでご説明をさせていただきます。概要版の資料3をお手元によりしくお願い申し上げます。

この資料3でございますが、各シートの右下に番号が振ってございます。それに基づいてご案内をしながら、説明を申し上げてまいりたいというふうに存じてございます。

まず、この1枚目の下のシートの2でございます。

現在、東京は、臨海部の開発あるいは鉄道の立体化、駅前の整備など、各地でさまざまなまちづくりが行われており、大きく変化をしてきてございます。そこで、こうした変化の中で、これから東京と杉並はどうなるのかということで、杉並区を含む23区と隣接の2市の人口、あるいは土地建物の変化を予測したものでございます。この資料により、全体の中での杉並区の傾向がある程度浮き彫りになるものと存じます。また、新たな基本構想は、今後10年間で展望したものとして策定をいたしますけれども、その先の状況を見据え

ながらの検討ということで、この資料では、2010年から2035年まで、25年間にわたる変化ということで大きく予測をさせていただきます。

杉並区については、ここにも記載がありますけれども、区全体のほか、標準的な生活圏域として、交通体系を考慮して、七つに設定した地域、その地域別の変化も予測しているところでございます。

なお、この予測でございますけれども、事前にお送り申し上げました本編、資料2の60ページ以降に記載の方法で、最新の調査データを用いながら予測を行ったというものでございます。

シート3でございますけれども、総人口ということでございます。

23区全体では、このグラフを見ていただいても増加傾向が見込まれると。特に、この間の臨海部の開発が進んでいる江東区、港区、中央区、こういったところで、2035年までの間に10万人以上人口が増加する予測となっております。

関連して、下のシート4でございますけれども、一方、杉並区のところ、黄色いラインマーカーを引いてございますけれども、杉並区の人口でございますが、この間、杉並区の人口は、1997年、平成9年以降、一貫して増加してまいりましたけれども、ここ一、二年は伸びがとまってきている状況にございます。杉並区では、見てみますと、2020年あたりから人口減少に転じ、2035年までに4,000人減少するという見込みとなっております。特に、このシート4を見ますと、中央線沿線の中野から杉並それと三鷹、このあたりが減少傾向ということになっておりますけれども、本区に隣接する世田谷区、練馬区、ここらあたりは微増、横ばいといったような状況で、多少違いが出ているかなと、こんなふうにとめてございます。

続きまして、シート5でございます。ここでは、人口増加率と人口増加数ということでございますが、隣接2市を含めた25区市全体で見ますと、臨海区を初めとする東京中心部が増加傾向にあるというのは、先ほどのシート4でも見受けられるところだと思います。

そして、下のシート6でございますけれども、杉並区の7地域別の状況です。この間、大規模な集合住宅が建設されてきました井草地域や西荻地域、それと高円寺地域で増加が見込まれる一方、他の地域では減少となるという予測になっております。

続きまして、シート7、外国人人口の関係でございます。23区全体では、2035年には現在より28万人増えて65万人と、構成比も6.5%ということで見込まれてございます。

シート8、下でございますけれども、杉並区の外国人人口につきましては、この間2035年までで3,500人の増加見込みということですが、伸びとしては、見てみますと、増加率のところですが、23区平均の半分以下というような状況ということでございます。

続いて、シートの9でございますけれども、外国人の構成比で、比較的高いのは、東京23区を中心から東側というところがこの色で見てとれるかと思えます。赤い部分が構成比が増えてきているところということでございます。

このページの下シート10でございますけれども、7地域別の状況ということでございます。これにつきましては、ご参照いただきたいと存じます。

シートの11、年少人口でございます。

15歳未満の年少人口につきましては、23区全体では、2035年までに3.7%、4万人減少し、94万人と見込まれています。そうした中で、杉並区ですが、5万1,000人から31%、1万6,000人減少するというので、3万5,000人になるというふうに予測がされてございます。

次のシートの12は全体の状況でございますけれども、見ていただきますと、年少人口が1万人以上増加するのは、先ほど総人口のところを見ていただきました、それが大きく増加する臨海部の江東区あるいは中央区、港区ということで比例関係にあると。一方で、杉並区あるいは渋谷区、中野区では30ポイント以上の減少率になるということで、一つの特徴かなというふうにとらえてございます。

次のページのシートの13でございますが、年少人口の構成比が高くなるというのは、やはり東京の中心部から東側のあたりというところが見てとれるというふうに思います。現在、構成比が低いのは、豊島区、新宿区、中野区、渋谷区ということでございますけれども、これが2035年には、杉並区を含む、今申し上げた区の周辺の部分、そういうところでも低くなる状況が出てきているということが見てとれるかと存じます。

次のシートの14、これは杉並区の7地域別、いずれも年少人口が減少するというので予測されているところでございます。

次に、15歳から64歳の生産年齢人口でございます。

23区全体、このグラフを見ていただきますと、2035年までに46万人増加して、658万人になる見込みと。一方、杉並区は、そうした中で8,000人減少して、37万5,000人になるという予測になっております。

下のシート16で全体の状況を見てみますと、総人口が大きく増加します江東区、港区、

中央区、このあたりでは7万5,000人以上増えるということで、ふえ幅がかなり大きいというところが見てとれます。現在、若者単身世帯が多いとされる渋谷区、中野区、世田谷区ですけれども、このあたりでは1万5,000人以上の減少というふうになってございます。そうした中で、杉並区は8,000人の減という状況が見込まれてございます。

次に、シートの17でございますが、生産年齢人口の構成比、これは2010年に比べまして、2035年の生産年齢人口の構成比が高いのは、やはり東京の中心部にまとまってきているところが見てとれます。赤い部分、ピンクの部分ということでございます。一方、外周部になります葛飾区、足立区あるいは練馬区、三鷹市では、構成比が低くなってきているところが見てとれるかと存じます。

杉並区の地域別状況が18でございますけれども、総人口と同様に、井草、高円寺、西荻地域で生産年齢人口が増加するというような見込みが示されてございます。

ページをおめくり願います。65歳以上の老年人口でございます。

23区全体では、2035年までに、21%、37万人も増加する、そして212万人となる見込みということですが、杉並区でも、19%、2万人が増加し、12万4,000人となるという予測でございます。

下のシート20でございますけれども、全体を見てみますと、この25区市の老年人口、北区だけが減少、その他はすべて増加という見込みになってございます。この中で、特に世田谷区、港区、江東区、このあたりの増加数が多いことが見てとれるわけでございます。

次のページのシートの21では、構成比を見てございますけれども、老年人口の構成比が低いエリア、これ、色で見ますと、2035年までの推移の中で、かなり構成比が低いエリアが東側の方に移ってきているところが見てとれると存じます。東京中心部の千代田区、中央区とその周辺の構成比、ここが低くなるような状況が見てとれます。そうした中で、杉並区は23区平均並みの構成比ということで見込まれているところでございます。

下のシートの22で、地域別でございましてけれども、区内全地域で老年人口が増加するという中で、西荻や荻窪、高井戸地域の増加数が多くなっているという状況が見てとれるかと思えます。

次に、23区の土地利用ということで、ここからは土地と建物になってまいりますけれども、2035年までの間、全体として、いわゆる宅地、農地、これが減少して、道路や公園が増加するという予測になってございます。

下のシートの24、杉並区の土地利用ですが、ここも傾向としては、23区全体とおおむね

同様の傾向というふうに受けとめております。

次のシートの25、建物の床面積でございます。23区全体の状況でございますけれども、営業店舗などの事務所、それと、マンションなどの集合住宅の床面積が大きく増加するという予測になってございます。集合住宅が増加する一方、戸建などの独立住宅は減少するというのが23区全体の状況ということでございます。

下のシート26でございますが、建物の床面積の増加、これが大きいのは、港区、世田谷区、練馬区、江戸川区と。杉並区は25区市の平均増加面積を上回っているような、そんな状況ということでございます。

シートの27では、23区それと隣接市、容積率と建物の平均階数ということですが、建物の容積率を見ると、杉並区などの外周部、ここは容積率が比較的低い状況と。あと、25区市全体では、建物の中高層化が進むということでございます。

その下に、今お話し申し上げた、建物に関する全体の2010年と2035年の比較ということになっておりますので、ご参照ください。

次に、シートの29、杉並の用途別の建物の床面積を見てみますと、集合住宅と独立住宅が大きく増加するというところが見てとれると思います。先ほど23区全体では、これらのいわゆる住居系の建物の構成比については、この表の独立住宅と集合住宅を足し上げたポイントでございますけれども、2035年で56.6%であるのに対し、杉並区は同じく78.4%と、ここが高いのが特徴というふうに存じます。こうした反面、杉並区の場合、商店などの住商併用の用途の部分が減少すると、そうしたところが見てとれるというふうに存じます。

シートの30、区の地域別の状況ですけれども、西荻地域で建物の床面積の増加が大きいと。また、高円寺地域は小さいというような予測結果が見てとれるかと存じます。

最後のページでございます。シートの31、区におけます容積率等でございますけれども、総人口の動向に比例するような形で、西荻、高円寺、井草地域の増加が顕著というような状況が見てとれるかと存じます。

概略、説明は以上でございますけれども、2035年までのかなり長いスパンにわたる趨勢予測ですが、杉並区におけるポイントを若干まとめてご説明しますと、一つには、23区全体では人口が増加する一方、杉並区の人口は2020年ごろから減少傾向になるというのが一つ。

それと、二つ目には、生産年齢人口は微減、年少人口は急激に減少と。反面、老年人口は23区平均の伸び率で増加。これが二つ目のポイントです。

三つ目でございますけれども、土地利用では、宅地、農地が減少し、道路、公園が増加。建物で見ますと、先ほど申し上げたように、特に住商併用系、これが減少して、集合住宅や独立住宅が増加するということかと存じます。

私からの資料の説明は以上でございます。

続いて、行革担当の副参事の伊藤から、区民アンケートの結果等について、引き続きご説明を申し上げます。

行政改革担当副参事 私の方からは、資料4、区民アンケートの実施結果についてと、それから資料5、職員アンケートの実施結果についてということで、二つご説明を申し上げます。

まず、資料4、「区民アンケート実施結果について」というものがございますので、そちらの方をご用意お願いいたします。

まず、この区民アンケートの実施結果でございますが、資料の一番最後のページの方をごらんいただきたいと存じます。

今回の区民アンケートは、この新しい基本構想を策定するに当たりまして、多くの区民の皆様のご意見をいただくということで、昨年11月21日付の区広報紙、広報すぎなみの臨時号ということで発行いたしまして、実施をしたものでございます。実施の概要につきましては、資料のページの方に記載をしたとおりでございます。こちらの方、募集期間、回答方法等を記載しておりますので、ごらんいただければと存じます。

なお、区の広報紙は20万4,000部を発行してございます。今回のアンケートも同数を発行いたしまして、募集をしたというところでございます。

では、資料の最初のページに戻ってまいります。

アンケートの回答者数ですけれども、第1回の審議会でもご説明しているところでございますが、約5,000、合計で4,953名の方からご回答をいただきました。はがきが4,923人、インターネットからの回答が30人ということで、合計が4,953名となります。

参考に、この表の右側に、前回の基本構想策定時に行いました、同様の調査方法で行いました区民アンケートの結果についても、参考として提示をしてございます。こちらを見ていただくと、アンケートの総数が1,267人ということで、今回の調査結果は約4倍というふうになってございます。

このグラフの方を見ていただきますが、男女の比の分布になりますが、前回のアンケートと比較しても、ほぼ同様な傾向にございます。男性・女性の比で大体4対6というような

傾向が出てございます。

それから、グラフでいいますと、円グラフの下の方になりますが、今度はアンケートの回答者の年代別の内訳になります。こちらの分布の方を見ていただきますと、やはり前回のアンケートを参考としてつけさせていただいておりますが、同じような傾向が出てございます。大体60代以上の方で約7割というような傾向が出てございます。今回のアンケートにつきましては、10歳未満の方から100歳を超える方というところまで、本当に幅広い層の方々からご回答をいただいております。ただ、10代以下それから90代以上の方々につきましては、分母となる母数が少のうございますので、これ以降の統計に関しましては、それぞれ20代以下と80代以上ということで計算をしております。

それでは、ページをめくっていただきまして、2ページの方になりますが、こちらの方は各アンケートの回答者の方々の年代別の男女比をお示ししてございます。こちらの方は、ご覧いただければというふうに思います。80代以上になると男性の比率が高くなるというような傾向が出てございます。

それでは、資料3ページの方に参ります。今回の区民アンケートは、質問は3問と自由意見という形でアンケートをとらせていただきました。

まず、問1になりますが、質問は、「あなたにとって、大切にしたいと思う杉並区の魅力は何ですか。」ということで、三つまでの複数回答をしていただいております。ごらんいただいている棒グラフですが、男女とそれから全体という形で、それぞれの占める割合を示させていただいております。「治安の良さ」が最も多く、その後、「街並み・景観」、「福祉・保健サービス」という形で続いてございます。治安や街並み、水辺といったハードウエアというのでしょうか、目に見えるような景色とか、住みやすい環境といったようなものをまちの魅力としている方が割合として高いのではないかというふうなところが見てとれます。

先ほどごらんいただきましたが、回答数に年代の偏りが少々ございますので、このグラフを年代別に分類してみると、少々様相が異なってまいりますので、その分析が次のページをめくっていただきまして、4ページになります。

こちらは、3ページで示しました全体の結果を年代別に分類をしたものになります。横軸が各年代をあらわし、それぞれ縦軸に割合という形で示しております。カラーになっておりますので、ごらんいただければというふうに思いますが、ここでは20代から40代のいわゆる子育て世代の方々にとっては、子育て環境というものを魅力に感じる方が非常に突

出して多いというようなことが出てきます。この傾向は、50代以降の子育てが一段落した年代の方々以降になると、逆に低くなるという傾向が出てまいります。逆に、福祉・保健サービス、こちらは黄色い線になりますけれども、こちらは20代、30代の方々は比較的低い数値なんです、それ以降の年代になってきますと、徐々に徐々にと上がっていく傾向が出てきます。とはいえ、街並みとか水辺といった分野に関しましては、年代に関係がなく、非常に高い割合を示しているというようなところが出てまいります。そのかわり、年代に応じて落差が出てくるものがあるというようなことが出てまいります。これらの傾向を見る限りだと、各年代で、今現在必要として、また、そのサービスを受けているの方々、そういった方々がそれぞれに興味の濃いところに高い割合を示しているのではないかと、うふうに思われます。

それでは、5ページの方に参ります。

今度は問2というところになるんですが、問2の質問は、「10年後もあなたが住み続けたいと思うまちにするためにどんなことが必要だと思いますか。」という質問でございました。こちら全体を占める割合を、それぞれ上位順にグラフで示させていただいています。こちら複数回答にしておりますが、医療・介護の分野の項目が非常に高い割合を示しております。問1で高かった街並み・水辺・みどり・交通といった分野に関しましては、3番目より下というところに位置しております。回答された方々がご自分の10年後を考えたときに不安を感じる、そういった項目を挙げられたのではないかと、うふうに思われます。

問2の結果につきましても、年代別で分類をしております。こちらの方、6ページをお開きいただきたいと思います。問1と同じ傾向が、実は、子育て環境と介護サービスの割合でも出てまいります。

子育てに関しましては、やはり30代の高さのピークが出てまいります。これは上のグラフの赤い線になります。20代以下の数値も高くなってはおりますが、こちらは子育て中または子育て予備軍という年代の方々が、10年後もご自分が子育てをしているであろうところから、ニーズのあらわれかなというふうに考えられます。

また、介護サービスにつきましては、問1で福祉・保健サービスに示す数値の高まりのぐあいが、ほぼ約1世代分早まってくるというようなところが見てとれてきます。同時に数値の差があるんですけれども、子育てしやすい環境づくりが10年後に必要というふうを感じる方の波といいましょうか、そういったところは、数値に差がありながらも、教育環境の充実というところにも同じ波が出てくるというようなものがございまして。

以上、雑駁になりましたが、区民アンケートの実施結果の説明になります。

続きまして、資料5、職員アンケートの実施結果でございます。よろしいでしょうか、資料5になります。

職員アンケートの結果につきましては、こちらの方に記載のとおり、昨年11月25日から12月15日という形で、少々短い期間で実施した結果、221名の職員から回答がありました。男女比またはその結果については資料に記載のとおりとなりますので、こちらの方はごらんいただければと思います。

なお、問1、問2に関しましては、区民アンケートと同じ質問をさせていただきます。こちらの方は、ごらんいただきまして、その分布を対比していただければというふうに存じます。区民アンケート、問3に関しましては、それぞれ今後10年間を見据えたときのイメージということ 키워ワードに、それぞれご回答をもらったというふうな内容のものになってございます。こちらの方はごらんいただければと存じます。

以上で、大変雑駁で申しわけございませんが、区民アンケート、職員アンケートの実施結果についてのご説明とさせていただきます。

会長 ありがとうございます。

資料説明が簡明でよかったのですが、時間が少し短過ぎたかなという気も、皆さんお持ちかと思えます。

質問をして、本日の事務局の説明を確認したいという委員の皆様もあるかと思えますし、これに関してご意見を出したいと考えられている委員の方もおありになるかと思えますので。前回と同じように、まだ時間が十分ございますので、何かご発言いただけるようなこと、一言でも、前回と同じように順次お願いしたいと思えますが。

恐縮でございますが、初めに学識経験者の委員の方から。それから、次に区民の委員の方、それから、区会議員の委員の方。そういう順序で、ご意見を、質問でも結構でございますが、一言ずつでもいただければと思えますが。

それでは、こちらからずっと行っていただけますでしょうか。なければなくても結構でございます。質問でも結構でございます。どうぞ。

委員 今回のアンケートを伺った限りでは、特にこちらから質問や意見ということはありません。杉並区の場合は、環境、街並み、水辺、みどり、治安の良さというのはとても恵まれた環境かなと思えます。それに加えて、やはり区が一番身近な自治体であり、生活の共同空間になりますので、子育てや介護を含めた福祉・保健サービス、このあたりの構想

と具体化がやっぱり問われるのかなと思います。

また、子どもたちの教育と雇用、というのはこの区だけではなかなかうまくいかないかと思いますが、その子どもたちの教育も、当然ながら雇用環境ともつながっていきますので、そのことについても具体策を考えていければと思っています。

会長 わかりました。どうもありがとうございました。

では、次の委員の方、お願いします。

委員 質問は特にございませんが、人口・土地利用の趨勢予測の結果を踏まえまして、これはあくまでも予測ですから、このビジネス・アズ・ユージュアルといいますか、今後このまま推移していくところなるだろうということですが、やはり杉並区としてどうしたいのかということの基本構想では明らかにしていくべきだと思えます。このままほうっておけばこういうふうになるかもしれないけれども、例えば、外国人人口についてももっと積極的にふやしていくのか。例えば、アニメ産業を杉並区としてはこれまで一生懸命支援してきたわけですが、そういった一つの特徴のある産業を位置づけて、外国人人口も含めて、さらに杉並区に人口が集中してくるような、魅力を高めていくような、そういう手だてを打っていきたいのかどうか。もしくは、年少人口にしても、このまま行けば減少傾向が続くのでしょうか。それに何とか歯どめをかけて、やはり何とか盛り返したいのだというような、そういう、何といたうのでしょうか、やはりどうしたいのだということは今後明確に、明らかに描いていくということが、やはり基本構想に求められているのではないかというふうに、今の時点では感じております。

前回もちょっと申し上げたのですけれども、やはりそこで生まれて、成長して、そこを拠点に仕事をしてもいいですけれども、また子育てをして年をとっていくという、何か杉並区ですっと一生過ごしていけるような、そういうゆりかごから墓場までのビジョンを人々が持てるような、そういう基本構想の描き方というのですかね、それがやはりこの区民のアンケート調査なんかを拝見しても、今、魅力と感じていることが、さらにやはり10年後も強化してほしいことと何か一致しているのですよね。ですので、やはり、何かこう、ライフプランをそこで描けるような、そういった構想にできればなというふうに改めて思いました。

会長 ありがとうございました。

では、次の委員の方、お願いします。

委員 質問になるのかもしれませんが、区単位の人口動態というのは、これは封

鎖人口じゃありませんから、当然、社会移動が入っているわけですね。その社会移動をどう加味して、これを予測しておられるのかという質問です。

会長 どうぞ。

企画課長 事前にご配付した資料2が本編になりますけども、先ほどの趨勢予測。その60ページ以降に主な今回の予測の方法について記載してございます。委員からご質問があった社会移動の部分については、この60ページの真ん中あたりのところにありますけれども、この間、ちょうど2022年の住基人口をもとにしてやっているわけですけども、その間、この社会移動につきましては、平成17年以降の5年間の状況、その傾向を踏まえて、それを一つの物差しにして推計したと。そうした考え方でやっているということでございます。

会長 どうぞ。

委員 ここに書いてあることはわかったのですが、今後のことを考えると、恐らく高齢人口の転出というのはあんまりない。それに対して、若年層の転出はかなりある。転出した若年層が戻ってくることはあんまりない。と考えると、これは甘いんじゃないかなというふうに私は思って、見ておりました。

会長 いいご指摘でございました。

次の委員、どうぞ。

委員 今、発言した委員から人口の予測が甘いというお話だったのですが、私は、逆に、この予測がもし真実であるならばということで仮定するのですけれども、それこそ臨海区なんかと比べると、人口が大きく変動しないということは、将来構想を立てる上では非常に有利な立場にあるんじゃないかなという気がするのです。人口が大きく変動するところだと、これから先、何が起こるか分からない。現在の杉並区の場合は、そういうことで考えると、人口が余り移動しないのだろうと。多くなりもしなくなりもしないのであれば、比較的、将来予測ということを置いたとしても、かなり有効な将来構想が立てられるのではないかなという気がするのです。ですから、そこを、ぜひ、生かしていければいいのかなと。

ただ、注意しなきゃならないのは、先ほども紹介されたように、人口構成が変わりますよね。若年層が減って高齢者層がふえるということですので、そういう意味では、高齢者層のニーズに合わせたような構想を考えていく必要があるのだろうと。もちろん、いろいろな政策的な方向づけをすることによって、この将来予測に人為的に方向性をつけると

ということも可能かもしれないのですけれども、ご承知のように50万を超えている都市ですから、そういう意味では、そう簡単に政策的な方向づけが、周辺から人を呼び込むとか、周辺に人を流出させるとかということにはつながらないだろうなと思うのです。ですから、そういう意味では、この人口が比較的安定しているというところに着目した構想があってもいいかなという気がしているのです。また、あと、ほかのことでもお話しすることがあるかと思います。

会長 ありがとうございます。大変いいご指摘をいただきまして、ありがとうございます。した。

では、次の委員の方、お願いします。

委員 それでは、私も感想ですけど、本日の人口や土地のデータを見ますと、杉並区というのは、高齢化や少子化は進みますけども、安定した定住型住宅都市であり続けるということは、ほぼ間違いないだろうと思います。土地利用の特徴として、大規模な土地利用転換が起こるような要素がありませんので、先ほど資料にありましたように、都心区や臨海にある区のような変化というのは起こり得ないと思います。ただ、内部的には、データにもありましたけど、井草とか西荻などは都市化が進んでいまして、人口がふえるわけですが、一方で、阿佐谷とか荻窪とかほかではもう人口が減っていくという、全体としては横ばい、微減という、そういう傾向ですから、そういう意味では定住型安定都市であり続けるということだと思うのです。

私は西荻に住んでおりますけども、この10年間で駅周辺に大規模なマンションが林立しまして、若者が随分増えて、それから、JRの駅の改札はラッシュ時や夜の時間帯にはもう大混雑していますね。それから、繁華街が一変しましたね。若い人が入りたいような格好いいお店がいっぱいできて混んでいます。だけど、一方ではそうでないところもあるわけですね。

杉並というのは、一見非常に平板的に見えますけども、歴史、文化、生活スタイル、いろいろ、地域的な特徴がかなり違うのではないかなという気がします。駅が中心のそういう特徴を持っているところもありますが、そうでないところもあるわけですね。単に、まちの景観だけではなくて、例えば、阿佐谷のようにイベントをやったり、お祭りをやったり、あるいは、今、西荻の話が出ましたけど、商店街の構成なんかも違っているわけで、それから、中央線というのは、かつて 今もそうだと思いますが、文化人の方がたくさん住んでおられると思いますし、それから、あと、アニメとかITとか、そういう知識集約型

の、小口ですけどそういう産業も立地しているわけで。

だから、私は、杉並区というのは、その平板性、均質性のような印象とは実は違う特徴を持っていて、それをもっと強化して、多様なまちをつくり出せる可能性を持っていると思うのですね。行政的には7地域に分けていますけど、そういう区分とは全く違った意識というか、場所性とか、そういうことを磨いていくと、コミュニティとかあるいは地域のきずなみたいなものを強化するということをやっていけるんじゃないか。定住型都市として、ふるさとながつくれるのはでないかというようなことをちょっと想像していました。

会長 ありがとうございます、どうも。

では、次の委員の方、お願いします。

委員 ある意味では当然の結果ではあるのかという推察もできますが、先ほどご説明のあった、区民アンケートの5ページ、これは区の方で準備した選択肢の中から五つを選択していただくもの。9ページ、これは区民の方が直接的にご自身のご意見を記述する内容。大まかに見て、杉並区の、あるいは日本全体ということになるのかもしれませんが、基本構想の方向性は、（医療）、（介護）、（福祉）及び（環境インフラ）という方向で進めていくことになるのではないのか、区民の皆様方はその点を望んでおられるのか、そんな印象を受けました。

会長 ありがとうございます。

では、次の委員の方、お願いします。

委員 今の委員のように、多分、介護、医療、福祉環境面への期待が区民は高いのかなと思うのですが。

私は、社会教育、特に学校と地域の連携の活動などを担当しています。そこでの経験をふまえると、社会教育に投資することにより、予算を使わないでも区民全員が元気でいられるという仮説を持っています。つまり、年長者は豊かな人生経験があり、生涯学習等でさらに英知を身につけることで、生き生きと生活できるようになる。しかも、自分自身の生きがいでいられるだけでなく、学校などで、総合学習とか放課後活動で、ゲストティーチャーとしてかかわることで、子どもや若い世代に積極的につながるようになるのです。子どもたちから見れば、先生だけではなく、地域の年長者から学ぶことができるという経験を得るようになります。さらに、子どもたちがまた年齢を経て大人になり、今度は次の世代に自分の経験とか知恵を伝えていくというサイクルが出来上がるようになります。社会教育的な活動を通して、世代間の交流が生まれ、年長者も生き生きと、時には用もない

のに学校に出かけるくらい元気に活躍し、子どもたちも先生以外の大人から学べるということになっていくのです。言い換えれば、知の循環型社会を目指していくことが、大事な今後の課題になるだろうと考えています。

会長 ありがとうございます。

それでは、こちらの委員の方、お願いします。

委員 最初に、詳細なデータを見させていただきまして、本当にありがとうございました。見させていただきまして、やはり皆さまがおっしゃっていらっしゃるように、高齢化社会ということで、高齢者の方々へのサービスというのは、今後とても重要になってくるのではないかと考えております。

9ページの方にありました、「地域のきずな」という言葉が私はとても印象に残っております……

会長 アンケートの方ですね、9ページの。

委員 そうですね、アンケートです。やはり行政だけに任せるのではなくて、地域全体で杉並区をつくっていくという視点からすると、地域の中で様々なイベントをしたりですとか、ボランティア活動などを通して、世代を超えて、共に協力し合って、学校教育などにも少しずつ関わりあいながら、そして全体的に地域を活性化させることが必要ではないかなと思います。

お見せいただきましたアンケートですけれども、やはり私と同じ20代、または30代の回答率が非常に低いということで、10年前も同じような結果だとは思うのですけれども、とても残念だなと思うと同時に、高齢者の方々、60代以降の方々がとても区政に興味を持っているということで、非常に驚きました。しかし、20代、30代もたくさんの意見を持っていると思うので、その意見をより引き出せるような、声を拾い上げるような場所ですとか、何らかの媒体で、よりこれからこの杉並を支えていく子育て世代の意見を吸い取っていただけるとよいのかなと考えております。

会長 ありがとうございました。

事務局、確かに答えが少ないので、まちかどで何かでも意見を拾ってください。今、委員がおっしゃったようなこと、大事なことですから。

企画課長 今後、この審議会での議論の推移を踏まえながら、来年度に入りまして、そうした若い世代も含めた、世代別の意見交換の場、そんなものも工夫して設けていければ。その結果を、またこの審議会の議論にフィードバックしていく、そんなことで進めていけ

ればと思っています。

会長 わかりました。どうもありがとうございました。

委員 ありがとうございました。

会長 では、次の委員。何でも結構でございます。

委員 このアンケートを考えますと、杉並区の良さは、治安の良さだよ、街並み・景観はいいよ、福祉・保健サービス、このベストスリーですね。こういった安定した街並みでありながら、人口は7年後には減る傾向にある。若干この人口論、人口の推測からいきますと、いいまちでありながら、減っていくと暗示する。これも不思議な現象でございます。何かまちづくりの魅力がないのかな。特に、このグラフからいきますと、井の頭線沿線それから中央線、特に、阿佐谷、荻窪の辺はどうも減りつつあるような数字が出ていますね。そういう感があります。それから、良いことに、西武線沿線の方がぐんぐん伸びていきそうな。これは非常に楽しみでございますけれども、そういった現象に対して、この審議会はいかに構築して、試案を立てていくのかなという点で、大きなテーマ、ヒントを得られたなど、そんな感じがしております。

会長 はい。ありがとうございました、どうも。

では、次の委員の方、お願いします。

委員 まず、質問ですけれども、職員アンケートの実施で、職員の皆様の年代別の比率というのはどうですか。

会長 どうぞ。

行政改革担当副参事 はい。大変申しわけございません。今回、実は、221ということで、非常に分母になるものが少なかったんで、年代別というものを省略させていただきました。基本的には、年代から申し上げると、40代、50代が比較的多い状態で集中していました。

委員 はい。ありがとうございます。

私は、この区民アンケートの実施の結果ということで、これはまさしく今の政治の投票と同じだなというふうに思うのです。結局、20代、30代というのは、非常に政治に興味を示さないと。実際に、50代、60代、70代の方は頑張っていると。それは暇だからやると思うのです。そうすると、当然、私は結果として、介護とか医療とか、そういうふうな結果になるというのは当たり前だと思います。

私は産業界の代表として、これを見て、がっかりしました。ということは、9ページで、

自由な意見を聞かせてくださいという中で、例えば、商店街の活性化、これは5%以下、それから区内の産業の活性化、これはもう、2%そこそこ。駅前の賑わいの創出とか観光・イベント　もう、産業についてはどうでもいいのだと、こういう感じです。これ、私、日本の政治はそうだと思うのです、まさしく。選挙はやはり地方もそうですけど、投票する人って、大体、40、50、60、70、もう年配の人ばかりです。ということは、政治家も当然そういうことをやるのです。

だけど、私は、これは変わったというのは、20代、30代の人が、やっぱりこれじゃまずいと、そういう人たちが業界団体と連れ立って、それで、依存の体質で、それでもって引き出していると、要するに補助金を。そうじゃなくて、本当にやってくれるのは何なのかということ。だから、私は基本的には、元気で明るく前向きにと。これでいかないと、活性化しないのではないかと。介護される老人も、どこに住みたいのというと、駅前に住みたいというわけですよ。だから、やっぱり活力のあるところに住みたいわけです。老人だって、健常者の老人もいるわけですよ。だから、そういうふうなあれで、私はやっぱり、魅力ある、そういうふうなところをつくっていかなきゃおかしいのではないかと。何か、介護をやったり、医療をやったりというのは、何となく暗いイメージだなと。私はやっぱり、そういう人たちもあれだけど、もっと明るく元気にやるべきじゃないかなというふうに思うのですよね。だから、そういう意味で、そういう視点からも考えていただきたいというふうに思うわけでございます。

ある雑誌でいくと、杉並は貴族と素浪人でできているというふうに書いてありましたけど、先ほどもどなたか先生がおっしゃったのですが、中央線によっても違うし、井の頭線によっても違うし、西武新宿線によっても違うと。それから、隣の駅も違うわけですよ、全然。荻窪と西荻も違うし。だから、駅によっても違うと。だから、すごくおもしろいですよね。井の頭線も、我々はゆっくりでいいのだと。別に急行と鈍行、2分か3分しか変わらないですよ、あれ。我々はスローペースでいいのだと。それを、特徴的に我々は生きているのだと。地元へ行くと、そういうふうな発言をするわけです。だから、私はそういうのを生かして、やっぱりこう、楽しくやっていった方がいいのではないかと。何かこれを見ると、何となく我々産業界は寂しいなと。確かに、緑多く、環境のよい住宅都市というけども、せめて15%の産業もお願いできないかと。

これが私の意見でございます。どうもありがとうございました。

会長　どうもありがとうございました。

人口動向について話をしたいのですが、総人口の増え方と年少人口の減り方ですと、杉並区より世田谷区の方が全て良いのです。この調査は5年前にも同じ調査を、この森記念財団がやっていますが、その時も、世田谷区の方が良いのです。5年前の調査と今年度の調査で、世田谷区と杉並区を相対的にみると、杉並は下がっているのです。世田谷区も杉並と同じように住宅区で、同じように文化人が多いし、学校も多い。しかし、なぜ世田谷の方が杉並より総合的に良いのでしょうか。

それから、練馬区です。練馬区は急速に杉並区を追い越して、生産年齢人口も増加し、年少人口の減り方も少ない。練馬区は、ものすごく元気ですね。それから、豊島区が元気です。だから、中央線沿線のまちが長い時間持っていた偉大なかつての資産が、見方によっては、小田急と西武電車に奪われつつあると言えるかもしれません。

どうも、その原因は、僕は荻窪じゃないかと思うのですが。あんなに駅前をほっぽり出して、半世紀もそのままにしている。これは常識を疑います。僕、久我山に住んでいるので気楽に言えるのですが。まだ、西荻はおもしろいです。それから、阿佐谷もおもしろい。高円寺もおもしろい。だけど、荻窪は魅力ない。

以上、私の感想です。

委員 いやいや、エゴの杉並とも言われているようなので、これも、ぜひ、拝聴していただきたいなと。

会長 次の委員の方、お願いします。どうぞ。

委員 前回この会議に出て思ったことなのです。私のような一般のおばちゃん、おばちゃんが余りにも少ない。それと、このアンケートを見ましても、年代的に見ましても、男女比を見ましても、女性の方が多いです。それで、年代的に見ても、私の年代、60代ですが、50代、60代、70代の方が多い。そういった方々のエネルギーというのをもっと取り入れていただけると、逆にいいかな。

それで、基本構想というのは、私は本当に難しいことはわからないのですけれども、ここにも、先ほども他の委員がおっしゃいましたが、安心する、治安のいい杉並とか、いろんな、割ときれいなことが上位にいつています。しかし、私は現場の活動を毎日していて、現場というのはそんなにきれいなことではないのですね。介護でもそうですが、子育てになりますと、保育園に入れない。我々の仲間も、活動をするにも孫が熱を出したけど預けるところがないかと。私自身も今そうですが、そういう方々がいっぱいいて、活動したくてもできないという、実際の現場、日々、まだそういうことです。この大項目では、一般

的なキャッチフレーズもいいですけども、実際にその中身を決めていただくときに、ぜひ、現場の中の様子を酌み取っていただきたいと思っています。

私は、介護者の支援というか介護をしている方々の支援を、実は、5年前から行政が非常に協力を下さいましてやっているわけです。何も介護だけと言っているわけではなくて、実は、子どものころから、昔は道德というのがありましたが今はないので、介護ということに全く触れていないのです。なぜこのように介護というかというと、あらゆることは我慢できても、全員が介護を受けるわけです。事故に会ったとかよほどのことでもなければ、それにもかかわらず、余りにもそこをターゲットにすることが少な過ぎる。

それで、実際に、区の中で非常に有名な方が、ご自分が介護を受けるようになって初めて、私のところに去年お電話を下さいまして、自分が受けるようになって初めて知って、みじめだと。

今まで、私がおの方に、介護、介護と言っていたときは、何か他人事のような感じで、何かちょっと、正直言って、うるさいなと思っていたと。だけどそれをすごく反省するのは、自分が急に介護を受けることになって、あ、これはみんなが受けることで、自分も被介護者になるのだなと初めて思ったと。それが本当に生の声だと思うのです。

子どもの頃から、高齢者を大切に、周りの人に親切にしようと言った教育をしていけば、自然に介護も当たり前のこととして受け止められる。そうなればもっと人間って優しい気持ちになれるのではないかとということ、生意気なようですが、そういったことで活動をさせていただいています。ぜひ、そういったところを取り上げていただけるとうれしく思いますので、よろしく願いいたします。

会長 修身はないのですか、今は。「修身」という言葉は。

委員 修身。ないですね。出てこないです。

会長 ないですね。どうもすみません。

次の委員、お願いします。

委員 私は、実は、社会保障・人口問題研究所の所長を5年やっていたので、専門的なことは後から話します。

まず、今度のアンケートの結果とそれから職員の意識調査からも、私ども社会福祉法人は医療・介護の総合施設として、その責任というのをひしひしと感じさせられましたので、これはぜひ、私どもの職員にもよく周知徹底させたいなと思いました。これが1点目でございます。

それから、人口移動のことに关しましては、わかりやすく言いますと、移動によって増える人口と、自然に赤ちゃんが生まれて増えるのと、それから、逆に、社会移動でどんどん外へ出ていくのと、高齢で死んで少なくなっていくというような大体そういう組み合わせなのですね。私の印象では、人口予測では、平成17年の5年間の数字を使って予測はするのですが、その時点で既に各区の特徴がありまして、杉並は比較的社会移動が少ない区というふうに、私の記憶ではなっております。東京湾に面しているところは物すごい移動が入っております。ところが、私が江戸川区の総合計画を10年前につくったときは、江戸川区は保育所が足りなくて、どんどんどんどん団地ができて、若い人が増えていったので、そういう点では世田谷と若干似ているようなことであります。

ややもしますと、杉並は社会移動がなくて、自然に動いていくと。安定しているというところと安定しているのですが、衰退という言葉はおかしいけど、それこそ動かない。しかも、杉並の地域の空間を見ますと、鉄道と道路が縦横に縦断しておりまして、いわば通過都市という面になっているわけなのです。だから、そこをもう少し考え直していく必要があるんじゃないかと。

ただ、区民のご要望で、私はちょっと感心したことが一つありまして、これは、ぜひ、これからも、先ほど会長が若い人の意見とかをもっと聞くというふうにおっしゃっていましたが、区のいろんなことに積極的にではないけど何らかの形で参加していいという人がかなりいらしかったので、この力は大変大きいのではないかなと。これからまちづくりをして、計画をつくるときに、非常に生かせる要素ではないかということを感じました。

会長 事務局をお願いしたいことです。もしかすると、あんまり出てこないのですが、学生をもっと働かせるようにする、何かそういうことを杉並区でやって良いのではないですかね。学生を夜、下北沢や西荻で過ごさせるより、もっと、夜は介護に行きなさいとかね。これは修身ですけどね。若者は非常に貴重だけど、それをまた眠らせておいて知ったことではないわというのでは、まずいので。何かそういうモチベーションが起きるようなアイデアを出してください。お願いします。今、発言された委員のお話に刺激されて、申し上げます。どうもありがとうございます。

次の委員の方、お願いします。どうぞ。

委員 アンケート調査やこれからの杉並区の人口動態、土地利用の趨勢予測などの資料頂き、また皆さんの話を聞かせていただいて、あらためて今回いただいた機会の重要性をかみしめております。

区レベルの行政単位というのは、ヒューマンスケールといいますか、住民ひとりひとりの顔が見えるところまで近寄っていったものごとを見つめ、考えていかなければならない。その意味で、先程、他の委員がお話しになった地域差の問題というのは、これからの議論の中での大きなテーマだなというふうに感じました。

と申しますのは、僕は専門家ではないので、いただいた表をうまく読めているかどうかわからないのですが、別の委員がご指摘になったように、これからの人口構成の変化については相当に地域差が生まれてくるように感じるのです。ことに就労人口の出入りは、区全体の漸減傾向とは別に、地域別の動向に注目していく必要がある。今回の予測の数字を見ただけでも、将来、地域の格差はもしかすると相当広がるかもしれない。10万単位の中の何千人という差は、今後、相当大きなものとして地域の中で見えてくるだろうなというふうに改めて気づかされました。

区の基本構想の大きな課題として、それぞれの生活地域の課題をどれだけ取り込み、またどれだけきめ細かく対処できるかということがあると強く感じました。私も今日のこの気づきを大切に、今後の作業に生かさせていけたらと考えております。ありがとうございました。

会長 どうも、いいご指摘をありがとうございました。

次の委員の方、お願いします。

委員 はい。区民アンケートについて、少しお話をさせていただきたいと思っておりますけれども、前回のときのアンケートの倍の答えがあったということで、5,000人の答えが出てきたということですが、杉並区民の数からいうと、たかだか1%という答えであります。なおかつ、答えることを行なった人、答えようと思った人、そういう意思がある人あるいは意欲のある人のアンケートの答えというふうにとらえていいのではないかとこのように私は思うわけで、そういう中で、先ほど他の委員から話があったように区民の意見を吸い上げる、あるいは別の委員からありました、現場の声、生の声、そういうものをもっと吸い上げる、把握することが大事じゃないかというふうに思います。そういうものをきちっと把握した上で、杉並区の基本構想というものをつくっていく。これが大事であると私は思っております。区民のニーズも、やはり、顕在化しているニーズと潜在化しているニーズ、いろいろあると思います。何とかこれを持ち上げて、それをもとに検討していくということをお願いしておきたいというふうに思います。

もう一つは、先ほど会長から荻窪についてお話がありましたけれども、私もまさしくそ

う思いまして、やはり杉並のまちづくりは荻窪からというふうに思っておりますので、つけ加えさせていただきます。

会長 どうもありがとうございました。

次の委員の方、お願いします。

委員 はい。このアンケートを見ますと、回答は大体60代以上の方がほとんどです。ということは、やっぱり時間的に余裕があるのです、この年代の人は。時間的に余裕があるし、比較的恵まれた生活をしていらっしゃる。ですから、ましてこれから10年先のことまで考えるのですから、やはり20代、30代の少ないご意見のところをどういうふうを集めて、それを参考にここで議論をしていくというのが大事じゃないのかと思います。50代の人はもう、今何を言ってもだめです。そんなことを言うと怒られちゃうけど、本当にあんまり世間にも出てこないことが多いです。ですから、アンケートに出てこない層の声をいかに酌み上げていくかということが、一つ、一番大事なところだろうと思っております。

会長 どうも、いいご意見をありがとうございました。

どうぞ、次の委員。

委員 はい。私はやはり行政の基本的な姿勢としては、区民の声をいかに吸い上げ、それを具体化するかということが基本だと思います。先ほど話された2人の委員の方のお話にダブりますけども、私、この区民アンケートというのは非常に重要な、5,000人という、それは1%かもしれませんが、それから年齢的にいろいろ偏りがあるかもしれませんが、非常に重要な5,000人の意見であろうと思います。

昔からやはりこういうことをやっても、若い人が積極的にこのアンケートに答えてくれるという事を望む事は難しいですね。投票行動もそうですけども、これはもう、いたし方がないと思うんですね。ですけども、もっと行政の方で努力されて、幅広い年齢層のご意見を吸収していただくというのも大事だと思います。

それから、実は、私、会長先生のご指摘の荻窪に住んでおります。

会長 ああ、どうも。恐縮です。

委員 ええ。私、ずっと25年間大学病院に勤めておりまして、飯田橋にございます。飯田橋って今すごく変わって、何じゃこりゃという変わり方でございます。九段の方に大学があったのですけども、あそこへ行くと殺伐としている。そして、そんなことを言っちゃ申しわけないですけども、あそこにある木は植えた木ですね。私、荻窪に戻ってきて、大田黒公園の横を歩いていくと、根づいた木があるんですね。やはり、僕はそういう点で、

いい荻窪だなと思って住んでいます。駅前の焼き鳥屋さんはなくなっちゃいましたけども、非常にほっとするまち……。

会長 ああ。そういう。

委員 はい。私はそういう感覚を持っておりまして。ですから、特に、これからどんどんお年寄りがふえてくるわけですから、このアンケートの結果を見ると、やはり介護サービス、医療体制、そして安心して住めるまちって、これはやはり、杉並の大きな特徴の一つだと思います。家へ帰ってきて、ほっとするようなまち。僕はそこが一つの、地域、地域で特徴があっていいと思うのですが、杉並に何も大規模な生産工場を移転するなんていうことは考えられないわけですね。けども、家へ帰ってきて、ああ、いいところだなと、大きい木を眺めながらほっとするまちをつくっていければなと。そうしたら、皆さんがほっとして住んで、いい雰囲気のマチができるのではないかと考えております。

会長 ありがとうございます、どうも。

次の委員の方、お願いします。

委員 私は、やっぱり、障害者関係のことを二つお話ししたいと思います。

一つは、今日いただいた人口の資料を見ると、私なんかはある意味でほっとしたというか、そんなに人口が減らないということと、それから、生産年齢が意外と多いと。70%ですか。実は、身体障害者手帳を持っている人の3分の2は65歳以上なんですよ。だから、杉並区の全体の平均年齢はもうちょっと高いのではないかなと思ったんですけども。19から64までの人のうちのどれぐらいが40代までなのか、50代なのか、60から64歳までなのかわかりませんが、そんなに生産年齢が2035年になっても70%ぐらいあるということについては、あ、すごいなというふうに思いました。

ただ、人口の問題で言うと、私、昔、手話サークルの会長をやっていたのですが、若い聴覚障害者たちが結婚すると、杉並区から引っ越すのですよ。それはなぜかという、多分ほとんどの方がご承知だと思いますけど、杉並区は家賃が高い。だから、2人で住む、あるいは子どもを産むことを考えたら杉並区には住めないということで、多摩地区とか足立とか、あっちの方ですね、埼玉とか。そういうところに引っ越してしまう。ですから、もし杉並区で人口を増やそうと思えば、そういう人たち、それは単に障害者に限らず、その聴覚障害者たちもお互いに働いている人たちであっても、家を出るとなると、アパートが高くて借りられないと。やはり将来的なことを考えたら、安いところを探して、多摩とか、要するに周辺地域、埼玉とか江戸川とかそういうところに移って、そこでマンション

を買うなり、あるいはそういう住宅を確保するという形でしかできないということがあるというのが一つです。やっぱり、これを考えていかないと、杉並区の方でも、私たちは低家賃の障害者用住宅を確保してほしい、あるいは、高齢者用の住宅を確保してと言っていますけども、なかなか、土地の問題等々があって実現していませんけれども、そういう問題をやっていかないと、若い人たち、健常者でも同じだと思うのです。15万ぐらいで生活できるかできないかという人たちが結婚したときに、将来的に、じゃあ、どこに住もうかというふうに考えたときに、やはり杉並区は、たとえ安心安全であって、緑が豊かであっても、そこに住めるだけの資金的な余裕がない場合には、やっぱり引っ越してしまうと。そういう問題を一つ考えなきゃいけないということです。

それから介護の問題についてですけども、きのう、おととい、ちょっと電話がありまして、70代の障害者3級ぐらいの人ですかね。でも、歩けないのですよ、ほとんど。楽しいことがない、もう、こんなだったら死にたいわというような話をして、あさって新年会があるから、そこにおいでよ、と声をかけました。でも、介護保険の対象ですけど、介護保険の場合、ヘルパーさんを頼むと1時間に1,500円か1,600円払わなきゃいけない。そうすると、たとえ新年会の会費が1,000円であっても、そこにヘルパーさんを、例えば11時から4時間、往復を入れて5時間とか6時間かかると、それで1万円、9,000円ですか、それを払わなきゃいけない。とてもじゃないけども、そういうことにそれだけのお金を払う余裕はないと言うのです。だから、そういうことをやって楽しんでいけば、やはり人生バラ色じゃないですけど、先が見えてきて、自分自身も元気になっていくと思うのですけども、その元気になるためのお金が介護保険の関係で、できないという状態。国の政策ですけども、年寄りになればなるほど介護を受ける、積極的に受けようと思っても、お金がない、と。

ある人なんかは、例えば、今まで週2回、64歳まではヘルパーの派遣を受けていたけれども、65歳になった途端、介護保険を必ず1割払わなければいけないわけです。そうすると、2回分を払うのはきついから、週1回に減らす。これは多分私の知っている人だけじゃなくて、いろんな人たちが、同じように、介護保険になった瞬間にお金を払わなきゃいけない。重度になればなるほど、3回、4回受ければ受けるほど、そのたびごとに10%払っていかなくちゃいけない。そういうお金がない人はどうするのか。

一般的な高齢者の場合は、生産年齢にいたときに働いたお金がある。多少はためるでしょ。今、老後が不安だから、みんな貯金するわけですよ。何百兆かわかりませんが、

郵便貯金とか銀行預金、働いていた人たちはそういうふうにお金をためることができるけども、ずっと障害者であった人たちにとっては、年金だけで蓄えがない。その限られた年金から、65歳になった瞬間に、はい、あんたは1回10%払うんだよ、700円と。それが週3回ならば2,000円、3,000円、月になれば何万円になる可能性がある。そういう状態がやはり今も続いている、起きているということについて、そういう問題も含めて解決していかないと、介護基盤の充実といっても、介護基盤は充実しても、それを受ける人たちのお金がない場合には、お金持ちだけの介護サービス基盤の充実になってしまう。

私なんかは役所に勤めていましたので、そこから年金をもらって、ある意味で生活は困らないような生活ですけども、生まれたときからずっと障害者で働けない人たちにとっては、そういうふうに、介護保険になった瞬間に払うお金がない、今まで受けていた介護を制限せざるを得ない。そのことによって、どんどんその人がまた自閉的というか閉鎖的になり、多分リハビリとかいろんなところへ出かけていっていければ楽しい人生で、それなりの前向きな人生を生きているであろうことが少しずつ狭められていく。そういうことがやはり現実にあるので、そういうのをなくしていきたいなというふうに私は思います。

会長 どうもありがとうございました。

どうぞ、次の委員の方、お願いします。

委員 いろいろとご説明をありがとうございました。

私も区民のアンケート、やっぱり、これはまず、ここから考えていかなければいけないのではないかなと考えております。

それで、資料4の中でご質問をさせていただきたいのですけれども、また教えてもらいたいのですけれども、この資料4の最初のアンケート総数というところで、はがきは4,923人なんです、インターネットの方が30名という、かなり数が少ないわけですね。若い人というのは割とネットに入ってアクセスしてやっていく面があるかと思うのですけれども、このインターネットについて、どういうやり方、方法といいますか、もしくは、これはやっぱり杉並区のホームページから入っていくのかどうか、ちょっとそのあたりをお話ししていただければと思うのですが。

行政改革担当副参事 ご指摘のとおり、杉並区のホームページからお入りいただくような形になっておりました。階層がやはり深くなってしまふということですか、それからそもそもアクセス数の問題とか、そういったさまざまな要因があらうと思いますが、結果的にこういう形になってしまったということです。

委員 わかりました。これはいろいろな方法、やっぱりアンケートというのは大切なので、いろいろな形で、先ほどもお話がありましたが、場をつくって、杉並区にどういった要望があるかということ、を、どんどん、これからもいろいろな形で集めてもらいたいと思っております。

それと、私も実は荻窪に生まれまして、今もすぎなみ詩歌館・角川庭園で、それから弁天池公園の方でも活動させていただいておりますので、荻窪の方のまちづくりということでいろいろお話ができて、協力できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長 どうもありがとうございました。

それでは、次の委員の方、お願いします。

委員 こんにちは。私は教育コーディネーターという総合学習のゲストティーチャー支援もやっているのですが、一つ、杉並区の地域情報サイトですぎなみ学倶楽部というところの 公共サイトですね、こちらの運営も受託しているNPOにありますが、情報の見せ方というか共有がすごく大切だと思っているのですが、アンケートの中であった、結構、緑が大切とか、そういった、もっと欲しいとか、いろいろあると思うのですが、これも情報を知らないで答えていらっしゃる方も結構いらっしゃるかもしれないので、やっぱりそちらの方でも、もう少し情報を発信すること、見せ方を工夫しなくてはいけないのだなと、ちょっと感じたりしたのですが。

区民アンケート、今、他の委員がおっしゃったように、私はインターネットの数のところを見て、ゼロを間違えているかなと思ったぐらい、少ない。恐らく杉並区の公式サイトの日当たりの万単位のユニークユーザーが見ているはずなので、万で来て、この期間で30人ということは、ちょっと驚いてしまうほど少ないなというのは、すごいショックでしたね。こういう通知は、やっぱり、学校の子どもたちに教えていただいたりしたら、結構授業の中で、まち探検とか、杉並区のことを考えるという単元がきちんと用意されていますので、通知をするだけで、学校の先生によっては、じゃあ、やってみようかなという先生がいらしたかもしれませんので、こういった行政に絡むことでも、やっぱり子どもうちから地域に自分の意見がちょっと言える機会があるとか、反映されるという、そういう自分のまちにかかわることで意見を発していくことを、義務づけるということなんですけども、機会を与えてほしい。多分、子どもは知らなかったと思います。知っていて送らないのではなくて、そういうことがあることすら知らなかったと思いますので、できれば学校

と少し連携をとっていただくとかができれば、ちょっとうれしかったなと思います。

あとは、「区民」と切っているからでしょうが、私たちとしては、本当は転出者のアンケートを見たかったというのが一番です。なぜ出ていったのかと。それは私の周りにも子育てをしている人がいたのですが、何人も転出していってしまう。それはやっぱり、5人兄弟の3人がぜんそくで、杉並区の医療費助成じゃやっていけないからという意見があったり、先ほどから出ている家賃が高いからとか、いろいろあるのですけれども。

私のときにもちょっと考えたのは、2人目の子どもを産むとき、保育園を1回やめさせなきゃいけないというルールが昔はありました。そのとき転出した人は、杉並区はずっとそのままだと思っているのですよ、多分。だけど、今、改善されていることって結構ありますので、転出した方に関しては、やっぱりそういったことは、杉並区はああいうところなのよという、口コミ力の怖さというのを私は結構すごく感じているので、思うのですけれども。転出者がどういう理由で出ていったか。それから、その理由が改善されたなら、改善されたということをやっぱり告知する何かがあるのかなというふうにも感じたりしました。

あとは、お話の中で、区民ライターという、70人ぐらい区民の方が取材・執筆して下さるのですけれども、何か見ていると、皆さんの意見もそうですが、区民というよりはやっぱりまちという意識をすごいお持ちなので、まち単位で自分のまちを大切にしようという気持ちはすごくお持ちだと思いますので、区でくくってしまうと、ちょっと興味をそいでしまう。そがれちゃう方もいらっしゃるのですが、まち単位だったら協力するよという人は、きっといらっしゃると思うのですよね。そういった、何か活用というか愛着を、もうちょっとちっちゃい単位でもいいので、生かしていただけたらなと思ったりしています。

あとは、アンケートをご紹介いただいた中で、皆さんがおっしゃるとおり、人口もそんなものかと思ったのですが、私も結構ショックだったのは、土地利用の方で、農地が半分になるという、これが物すごいショックで、今ですら高井戸の栗農園が半分になったと、みんな大騒ぎしている。これでまた減っていくとなると、何となく借景がなくなって、ちょっと寂しいところを感じたりもしました。

会長 はい。ありがとうございました。

土地のところは相続ですよ。

委員 そうですね。

会長 相続だと、高井戸の栗の木のある土地は、相続税が何十億になってしまうのです。

もう、売らざるを得ないのですよね。そうすると、またどこかの不動産屋が来てと、そういう根本的な矛盾があるので、区役所が買ってくればいいのですけど。だから、僕は増税、増税と言っているのです。皆さんが金を出して、その金でそういう土地を区が買えば、そうすれば皆さんのご要望に応えられるのですけど。増税してくれませんか、きっと。

それでは、次の委員、よろしくお願いします。

委員 商店街の方の代表で参加しております。

やはり先ほど各委員からご意見が出たように、この区民アンケートの年代のパーセント、60歳以上が7割というのがちょっとどうなのかなというのは、私も感じました。50代も入れると80%になってしまう。アンケートのとり方にもよると思うのですが。私、商店街の会長をやっていると、いろいろなところから商業調査関係のアンケートがたくさん来るのですが、設問があるけど、なかなかそれに当てはまらないことがたくさんあって、適正な答えがなかなか出しづらいところが多々あるので、アンケートというのは、やむを得ないところもあるのですけど、こういうふうに年代がこんなに偏っていると、余計、正確な数字は出ないかなと思っています。

このアンケートの設問の中でとらえづらいのが、「子育て環境」というのがあります。子育てしやすい環境づくりというと、じゃあ、子育てしやすいということ、お母さん方のイメージだと、例えば教育施設がいいとか、学校の内容がいいとか、それから、あるいは保育園待機があんまりないような環境とか、あります。でも、一方で、子育てというと生活そのものですから、物価が安いとか、交通の便がいいとか、いろんな要素が含まれていると思うのです。ですから、子育てしやすい環境づくりというのはイメージがわきづらいところですが、そういうのも感じました。

それで、今回の新区長の田中区長が盛んに言っているのは、情報の収集が大事だということです。施策を打つには何が必要なのか。このために、必要な情報をとにかく集めるということをおっしゃっていたのですが。その意味でのこのアンケートというのはわかりますけど、私はそれよりか、行政、区で集めているデータというのは膨大なものがあるはずで、いろんな施策の中で、数字はもう、しっかり押さえている。そこに本当のニーズが詰まっていると思うのですが。

このアンケートより、もう、さらに精度の高い情報がそこにあると思うのですけど。いろんな協議会に出ていきますと、いっぱい資料をいただきます。

私は自転車対策協議会というのに5年ほど出ているのですが、物すごく細かい情報が出

ています。その中からいろいろ、何が必要か、何が要らないのか、どうしていかなきゃいけないかということも見えてきます。ですから、行政のデータというのは、もっとこういう審議会には提出されてもいいかなと思います。

あとは、私、商店街の者なので、この「変わりゆく東京と杉並」ということの中の最後の方のシートの29のところにある、建物用途の今後2035年の変化という中で、マイナスになっているところで、住商併用というのがマイナス12というふうになっていて、商店街がだんだんなくなっちゃうんだと、そういうふうに感じまして、ちょっとがっかりしたんですけど。商店街とかまちづくりという、先ほど他の委員の方からもあった、そういう商店街に対する、商業とか産業に対する比率が非常に少ないなというのは、私も感じましたので。

やはり先ほど申し上げたように、区が持っている情報、もっと現場の情報というのがこの審議会に必要ではないかということを感じましたので、よろしく願いいたします。

会長 ありがとうございます、どうも。

次の委員、お願いいたします。

委員 失礼いたします。資料をお送りいただきまして、前回1回目に参加させていただいたときに申し上げましたように、散歩のときに年齢層が少し上がってきたというお話をしたのですが、やはり私を含めまして、老年人口、65歳以上というのが増加してくると。一方、全体の人口というのは横ばいという傾向にあるということで、次の杉並の10年を考えたときには、やはりその一つとして、若い世代、30代、40代、50代の世代の人たちにいかに転入していただくかということ、やはり区の財政と同時に考えていかなければいけないのではないかなと、これが一つのポイントになるのではないかなという気がしております。

私も生まれは京都ですが、学校を卒業して会社に入り、会社勤めをしてきました。この杉並区に約16年住んでおりますが、多分、ついのすみかになるのではないかなと思います。地方から東京へ出てきて、会社勤めをしている人は大勢いらっしゃいます。家族を持たれて、さてどこに住むかということで、やはり多くの人たちの関心事は、環境のいい、安全で生活のしやすいところだろうというふうに考えます。

そうした中で、私の関心事は、やはり駅を中心とした、駅周辺の、歩いていける安全な、安心して住めるようなまちづくりというのに非常に興味を持っております。先ほどからお話が出ておりました荻窪駅なんかも、おりてみますと、やはりちょっと違和感 違和感

というか、家を探しに出てきた人にとってみれば、ちょっとびっくりするような周辺じゃないかと思います。やはり駅周辺を、もう少し、コンパクトでいいのですが、小さな公園、緑があると同時に、商店街の活性化と同時に医療モールとか、あるいはデイケアセンター、あるいは行政施設のコンパクトなものを一つのモールの中につくるとか、そういう若い世代に魅力のあるまちづくりといいますが、駅周辺のまちづくりというのが、一つ、大切になってくるのではないかなという気がしております。

会長 ありがとうございます。

それでは、次の委員、お願いします。

委員 先生方また委員の多くの方々からのお話にもございましたけれども、杉並区の人口はほぼ横ばい状態で続いていくと。しかしながら、ただいまの委員さんのお話にもございましたが、老年人口は急激に増えていく、そして、年少人口は減っていくような状況でございます。

私自身も高齢者でございますけれども、高齢者は将来に大変不安を持っていると思うのです。資料の4の一番初めにもございますが、アンケートのパーセントは、70代の方が最も多い、60代以上の方だけで約7割を占めているということは、将来に対する不安をそのまま物語っているのではないかと思います。リタイアした方が多いからかなと思ってみたのですけれども、しかしながら、そういうことを考えた上でも、やはり将来に対する不安というものがある。その高齢者が心豊かに生活していくためには、どのような取り組みをしていったらいいのだろうか。こういうことが非常に大事だろうと思います。

一方、年少人口は、皆さんもご存じのように、急激に減ってまいります。先ごろ発表になりました小学生の体力テストを見ましても、東京都は成績が芳しくなかったようでございますね。若いお子さん方は日本の宝でございます。その若い人たちが力強く羽ばたいていく、そういうためにはどうしたらいいのか。知力、体力、これを整えていく、向上させていくためにはどうしたらいいかというようなことも大事ではないかということ強く感じた次第でございます。

会長 どうもありがとうございます。

それでは、次の委員の方、お願いします。

委員 はい。私は、前にも申し上げましたように知的障害のある息子がおりますけれども、先ほど他の委員から障害問題についてのお話がありましたので、この場では私も、もうすぐ高齢者の仲間入りをする歳になっておりますので、その辺についてお話を申し上げ

たいと思います。

アンケートの7ページにございますように、「協働の地域社会づくりについて、あなたのお考えに最も近いものを挙げてください。」というところで、「積極的に参加したい」、「できる範囲で参加したい」、「求められれば参加したい」という答えが本当に多くて、びっくりいたしました。私はこの場で本当に、ああ、私も頑張らなくてはいけないという勇気をいただきました。75歳の友人からの年賀状に「死ぬまで元気で生きていきましょう」という文面がありました。本当に簡単な一言ですけれども、とても味わい深く高齢で生きる道標のように感じられました。ぜひとも、杉並の高齢者の方々に、死ぬまで元気で生きていただきたいと願っています。それには、専門的なことはわかりませんが、上から目線ではなくて、当事者が行政の方と同じ目線に立って、自分で何かを創り出していく、自分で区政に参画していく、それが重要なことだというふうに考えます。

私の家の近くに小学校がありますが、横断歩道がありまして、その交通整理にかなり高齢の方たちが参加してくださっています。時々私は、ありがとうございますとお礼を申し上げますと「いいえ、お礼をいただくようなことではなくて、私たちは子どもたちに元気をもらっています」というお答えが多いのです。それに私は感銘を受けまして、何か胸がとても熱くなり、ボランティアというのはこういう精神だということを教えられました。これはごく一例ですけれども、このような取り組みをもっと増やしていったら、ぜひ、杉並の高齢の方々に死ぬまで元気で生きていって欲しいと考えます。

それから、ちょっとうるさいことを申し上げますが、以前の「杉並区21世紀ビジョン」という資料をちょうだいいたしました。これの進捗状況及び到達度などを出していただければ、私たちは新しい基本構想をつくるための手だてが得られます。そうしないと、何かちょっと、腑に落ちないなという思いをしておりますので、お手数をおかけいたしますが、データをお持ちのことと思いますのでご提出をお願いします。

それから、もう一つですが、アンケートも、今申し上げたことと同じですけれども、これからのことではなくて、以前のビジョンについてどういう評価をしていますかということも、当然、私はやっていただきたいというふうに思っております。もう、なさっていたら失礼なことと思いますが、検証と総括なくして、新しいことはできないと考えております。

会長 ありがとうございます。

今のご指摘、やってください。とっても重要なことですから。

企画課長 次回に資料を提出していきたいと思います。

会長 そうね。ありがとうございます。

それでは、次の委員の方、お願いします。

委員 はい。資料4の9ページの方のフリーアンサーのアンケートを見て、私も会社を経営していて、区内の業者さんと浅からぬ関係とか、お知り合いも多いので、「区内産業の活性化」ですとか「観光・イベントの創出」が低いというところに愕然というか驚いています。一方でシニア向けサービス開発の参考意見になるアンケートかなというふうにも見えています。

特に、「区内産業の活性化」ですとか「観光・イベントの創出」などに票を入れる人というのは、商売人でも起業家でもなければ一般人は普通入れない項目なので、低くて当たり前かなと。ただ、見方を変えれば、ここのポイントが低いというのは、既に十分な楽しいサービスというのが他区にあるからとか、自区にないから低いのかなという見方もできると思います。だとしたら、区内の業者にとってはチャンスかもしれないなというふうにも思い、そのチャンスかなと思うのは、通常、区が例えばアンケートの上位にある「介護サービス基盤の整備」とか「地域のきずなの向上」をじゃあやってみようといったときに、どっちかという、区行政というのは縦割りっぽいと思うので、介護だったら介護のことをやりましょうみたいな わからないですけど、ヘルパーさんをふやすのかなと思うのですが、それだと、どうもちょっと当たり前過ぎて、他の委員がおっしゃっていたようにちょっと暗い感じがするので、地域のきずなを高めたい、これも普通に考えたら、じゃあ、社会教育系のことをやるのかとか、町内会に人を入れさせる施策を講じるのかということになると思うんですけど、民間が 民間というのは基本そういう縦割り系ではないので、例えば、地域のきずなが向上するような利便性の高いバスサービスをやってみるかみたいな、異なるジャンル、異なる業種、異なるテーマといったものを掛け合わせるサービス開発をすることによって、新しいビジネスチャンスというものも考えられるんじゃないかなというふうに思いました。

この後あるんでしょうけど、部会設置のところ、部会もいろんな、産業だけじゃなくて、まちづくりとかいろんなテーマのものが入っているので、そういった視点で参加できればいいかなと思います。

会長 はい。ありがとうございました。

次の委員の方、お願いします。

委員 人の動きという資料をつくっていただきまして、大変興味深く見させていただいたのですが、全体の傾向としては、日本の傾向あるいは東京都の傾向を踏襲しているというような内容で見られるのではないかと思っているのですが。ただ、きのうでしょうか、NHKかなんかでちょっとやっていた番組がございまして、空き家が増えていると。

高齢者の空き家が増えているというのがございます。若い人たちが減って、高齢者が増えている。総体的な人口があんまり減っていないからいいのではないかというのは、ちょっと違うのではないか。この中には非常に大きな課題が、若い人に対してどういうふうな対策を立てなきゃならないのか。若い人が、やっぱり20代、30代、場合によっては40代の人たちが、杉並区はいいなということで入ってきてくれるような、また、そこで子どもを育てていくのがいいなというふうに言われるような、魅力のある方向にどうやったら持っていかれるのだろうということと。

もう一つは、高齢者の方たちが増えていく、割合も増えていくという内容をさらに考えますと、空き家の問題ではないのですけれども、30代、40代、働き盛りの方が杉並区に住んでいただけたと、お子様をつくられたと。お子様たちが親御さんと一緒に住んでいただけるような、あるいは、親御さんの後を継いで、その家に住んでくれるような動きが割合少ないのではなからうかと。高齢者の方だけがお住まいになっている世帯というのが結構あって、その方たちのお一人がまずいなくなって、そのうちお二人目がいなくなると、まるっきり空き家になっちゃうというのが、まちの中をパトロールといたしますが、まちを回って歩いておりますと、結構多いですね。杉並区はもしかしたら停滞ぎみな内容の中に既に入っているのではなからうかと。その辺に対応するような、高齢者に対する課題、または、若い人たちが入ってきてくれるようなものに対する対応という課題という形で、それは考えていかなければならないのではなからうかと。

それからもう一つは、先ほどからおっしゃられていますような、荻窪がちょっと停滞しているのではなからうかと。拠点として何とかならないのかというようなことも、まち全体の中としては、やっぱり考えていかなければならないのではないかというふうに思いました。

会長 ありがとうございます。

どうぞ、次の委員の方、お願いします。

委員 皆様がいいろいろご意見を言われていて、もう私の言うことがなくなってきたのですけれども、理想としてはどこに重点を置くというよりも、10年後に必要なことのいろん

な項目の、すべて、杉並区が一番というのが一番いいんじゃないかなと、夢のようですが思いました。

アンケートについてですけれども、これだけ年代に偏りが出ていますと、なかなか、区民の本当のところの要望というのは見えてこないなというふうに感じました。あらゆる年代からどうやってアンケートを集めたらいいかというのを今考えていたのですが、先ほど他の委員がおっしゃったように、小学校に義務づけるのもいいのじゃないかというお話がありましたけれども、もちろん、区立の小学校、公立の高校または杉並区にある大学、そして、そこに子どもを在籍させているPTA、それからNPOとか、区にかかわっているいろいろな団体がすごくたくさんありますよね。そういうもの、それから町会、商店街と、そういう団体を媒体にして依頼をするというのも一つの手かなと。そういうことが可能かどうかわかりませんが、広報とかでぱっと出されて、そこに書き込んで、折り畳んで投函して、インターネットで開いて打ち込んでという手間をかけてまで、なかなか、皆さん、アンケートというのを出される方は少ないので、そういう団体という媒体を利用するというのも一つの手ではないかなと感じました。

会長 はい。ありがとうございました。

それでは、区議会議員の委員の方、ご発言をお願いします。

委員 はい。私の方から、一つ質問と、一つ意見をさせていただきます。

最初に、一つ、質問の方ですが、そもそもの話になって、もう、これだけ議論が進んでいる中で申しわけないんですけれども、前回の基本構想の策定のときも同様にこういった将来推計が行われていたと思うのですが、そのときのデータをもとに作業が進んでいたと思うのです。そうであるならば、21世紀ビジョンが、当時の推計に基づいて立てたものが、今その実態にそぐわなくなってきたから今回新しい基本構想をつくろうと、こういうことになっているのだと認識をしているんですけれども、そうであるならば、今回のこのはじき出された推計が、前回と比べて、確度としてどう上がっているのか。また、前回の推計と比べて大分乖離があったということであるならば、どこを今回改善してこういったデータが出されたのか。まず、その点を質問させてください。

会長 どうぞ。お願いします。

企画課長 10年前も、当然、基本構想とそれに基づく計画をつくるに当たって、人口推計はやっています。ただ、この間の実績を見ますと、特に、こここのところの状況というのはかなり変わってきています。ちょっと今手持ちのデータがないのですが、例えば、

国の方の国立社会保障・人口問題研究所、これが2010年の予測を出しています。東京都の方も2010年の各区別の予測を出しています。その数字と2010年の実態値では、例えば江東区あたりでは、総人口で3万人違ってきているだとか、杉並区でもかなり開きがある。だから、私ども今回この基本構想の10年後を考えるに当たって、この間の傾向、人口動態、それを踏まえて、これをつくったということです。

今回の推計というのは、5歳きざみの集団によるコーホート法で、これは通常の推計に使われている方法ですけども、それでやり直したと。今後の計画づくりに当たっては、もう少し各歳別にやっていかなきゃいけないので、それについては、改めて、また今回の資料とは別にやっていく必要があるだろうというふうに思っています。

いずれにしても、前回の推計をしたとき、それと実態値というのは、かなりこの10年で違ってきているというのは一つあるかと思っています。人口推計自体が、長いスパンになると、なかなか、これ、難しいということがありますけれども、今回はあえて10年後を考える場合に、もう少し長いスパンで全体の傾向を少しご議論いただきながら進める必要があるかなと、こんなことで2035年までの推計をお示ししたということです。

会長 どうぞ。

委員 おっしゃることはよくわかりますし、これが一つのデータとして、たたき台としてであるというぐらいの認識でないと、また10年後、また違うじゃないかということにもなりかねないですし、せっかくつくったものが、そういうデータに基づいてやるわけですから、総じて言えば、少子高齢化が今後この杉並区の中では進んでいくのだろうという、雑駁なイメージとしては大変大まかにつかませていただいたので、参考にさせていただきました。

あと、一つ意見とさせていただくならば、前回の基本構想の内容としては、杉並区全体のあるべき姿ということでつくられていたと思うのですが、先ほど他の委員の方からもお話があったのですが、やっぱりまちごとに、駅ごとにそれぞれ特徴が違います。このデータもそうですけれども、高円寺の地域では年少人口がどうだとか、阿佐谷ではどうだとか、こういう形ではじき出されてはいるので、このデータが参考になるかどうかというか、大もとになるかどうかというのはあるのでしょうけれども、全体としての総花的な理想像はあったとしても、地区ごとに、何かもう一つ絞り込んだ形の基本構想というものをつくれば、前回よりはさらにいい構想になるのではないかなと、個人的な意見として、私はそう感じました。

以上です。

会長 はい。ありがとうございました。

非常に重要なご意見ですので、事務局でも考えてみてください。ありがとうございました。どうぞ。

委員 よろしく申し上げます。たくさんの方のご意見をお聞きしながら、大変勉強をさせていただいているところです。

このアンケートの結果が示されたわけですが、実は、私どももこのアンケートを独自にやりましたら、大体同じような傾向のようなところも出ています。私どものところも約4,000戻ってきたわけですが、例えば、その中で、将来に不安はどうかというようなことで言うと、85%ぐらいの方が何らかの形で不安だというふうに答えているとかもあたりもするわけですが、いろいろ重なるところがあるというふうな形でも見させていただいたということです。

それで、この人口の全体構造云々というお話が大変集中しているかというふうに思うのですが、私は今度のこのアンケートで、若い世代は保育園に非常に関心があると。それは保育園に入れたくても、なかなか、すぐ入れることができないということが一つある。それから、高齢者のところでは、介護に非常に関心があり、また、医療についても関心がある。これも、例えば特養ホームに入りたいといっても、なかなか、すぐ入れることができない、待機者も大変多いということの反映なのかなというふうに思っております。

そこで、私は、やはり杉並区が、この二つの若い世代と高齢者の、いわゆる介護にかかわる部分と保育にかかわる部分を真正面から受けるような施策が非常に急務でもあるし、大切ではないかというふうに思います。というのは、例えば、保育のところ、保育の待機者がなくなるようなことをすれば、その家庭で仕事ももちろんできますけれども、それをするためには保育士さんも要るし、栄養士さんも要るしとか、やっぱりいろんな施設を運営するための事務をする人も要ると。あるいは、介護の高齢者のところの特養で言えば、同じような、介護をする人やお医者さんやいろんな方々、あるいは事務をする方、いろんな方がいると。そういうことで職も生まれるし、そこで安心をして預けたり、将来不安がなくなると、若い方々が、今、ある国の方の統計でも、子どもさんは、みんな2人から3人ぐらい欲しいというふうに思っているけど、なかなかつくるということが、環境が整っていないためになかなか難しいということですから、もし、そういう環境をこの区が限界はあるかもしれませんが、積極的につくることによって若い人も増えてくる。

そして、高齢者のところでも安心をして、職も増えて、若い人も増えて、そして、その施設を運営をするときには、医師会の皆さんのご協力ももちろんですけども、地域の商店街からいろんな物資を買って運営をするというようなことにもつながっていくということになれば、この杉並の重要な産業の一つが、あるいは中心で最大が商店街でありますので、商店街も発展の方向にも、少なくとも向いてくる。あるいは、若い人も増えてくる。子どもも、将来的にも人口が減るのではなくて増えてくるというようなことの方角になってくるのではないのかなというような、ちょっと思いを改めてさせていただいたということが一つです。

もう一つは、いろんなアンケートのご意見の中で、教育にかかわるところが、意外と、ランクで言いますと関心の位置が低いなというか、少ないというか、そのところでは、ちょっとどうしてなのかなというような思いもしました。逆の言い方をすると、教育環境がとっても整っているのに、あんまり皆さんも関心を持たなくなっているということなのか、それともまた逆のことなのか、いろいろあるかと思うんですけど、そんな思いもしながら、先ほどのご説明を聞かせていただきました。

まだ意見として言いたいこともあるんですけど、時間の関係もありますので、この辺にさせていただきますと思います。ありがとうございました。

会長 どうもありがとうございました。

次の委員の方、お願いします。

委員 まず、人口構成についてですけども、予想したよりも緩やかというか、かなり、総合計画をつくる上では非常にやりやすい推計かなというふうに感じました。

それから、区民アンケートについてですけども、やはり介護・医療という福祉分野の充実が求められているということで、皆さんからご意見をいただいたとおりでと思うんですけども、他の委員からありましたこの協働の地域社会づくりについての考えということで、特に、この、参加してもいいよというのが8割を超えているという状況で、これは10年前に同じようなアンケートはしておりますか。

会長 どうぞ。

行政改革担当副参事 申しわけございません。質問として、ちょっと趣旨が違った質問になっていまして、同様の趣旨というか、こんな感じで比べられるものになっていなかったものですから、ちょっと比較が難しいかなと。

委員 ボランティアとかいう形ではないですか。ボランティアで、同じじゃないですか、

意味は。

政策経営部長 そうです。

委員 似たようなのがあったら、1回出していただければありがたいと思います。

やはり、さまざま、区民の皆さんも、何となく介護とか医療とかを維持する、もしくは充実させる方向であるということであれば、望むのであれば、財源が非常に厳しくなるというのは薄々感じているのではないかというふうにも考えるわけで、そういう意味では、お金を使わずにそういった仕組みをつくっていくという、それに何とか参加してもいいよと。そんな感覚が、意識する、しないにかかわらず、もう既に中にあるのではないかというふうにも強く感じた次第です。

その点をどう、区長が言う「新しい公共」という場面で集約できていくのか、これから非常に楽しみにさせていただきます。特に、自由意見等々を見ますと、「地域のきずなの向上」ですとか「マナーの向上」ですとか「NPO・ボランティアなど地域活動の活発化」等々もそこそこの意見が出ているということですので、そういったものをやはりコーディネートする方法なりなんなりを考えていくべきだろうというふうな考えを持ちました。

会長 ありがとうございます。

次の委員、お願いいたします。

委員 このアンケートの結果が、ほとんどが60代以上からの回答であったということと、その関心の高さといいますか、この概要版の資料4の9ページですけれども、交通利便性ですとか介護サービスの方が高くて、教育問題、文化あるいは区内産業といったものの関心が低いのは、これは当然のことだと思います。この設問が「10年後の杉並区を住みよいまちにするために、あなたのご意見」という質問ですから、10年後、今から10年たったら、60の人は自分が70になっているから、そうしたら膝が痛いから、交通の利便性はいい方がいいに決まっているから上の方に上がってきますし、区内の産業というよりも介護のサービスというのが上に当然上がってくるのだらうと思います。

ですので、この4,900人から回答があったというのは、これは恐らく29万世帯で1世帯1人の人が回答したとすると、1%以上の回収率というのは、かつてない、区の一つ大きな成果としていいと思うのですけれども、ここですべて区民の意見が把握できたと思ったらそれは大間違いで、先ほどからも子どもの声というお話がありましたけれども、私も、子どもの数は少ないけれども、子どもだって意見を言う権利があり、この社会を構成してい

る構成員であり、そこをどうにかして聞き出さないことには、杉並区の将来はないのではないかとさえ思います。

私は、自分の政策というか、スローガンというか持っているのが、子どもが死なないまちにしたいなというふうに思っています。子どもという定義は17歳までです。それは子どもの権利条約に規定されているのが0歳から17歳までですけれども、病気になっても必ず治る、けがをしても必ず治る、障害を持っても障害を持ったなりに、子どもを大人にさせるというのは、必ず大人の責任としてやらなければならない、そんなふうに思っています。そして子どもの声を何とかして引き出すためには、また、若者、10代、20代の声も同様ですけれども、この方法でない、何か別のアプローチが必要だということが、この調査ではっきりしたということが言えると思います。

今、タイガーマスクが、運動とまで呼ばれるように日本じゅうに波及していますけれども、あれは、何か社会に貢献したい、名誉のためではなくて、自分の名前を売るためではなくて、だれか人のために、他の人のために何か役に立つことがしたいということのあらわれで、恐らく遊び心ということもあったのだと思いますけれども、だれか1人の人が行ったことがやる気に火をつけたというか、流行のような形になって広がったという、そこに何か若い人の参加しやすい仕組みというか、アプローチしやすい手法というか、ヒントがあるのではないかなというふうに、ちょっと思っています。具体的な提案はできませんけれども、工夫が必要だということだけ、これではっきりしたということをお願いしたいと思います。

会長 ありがとうございます。

次の委員の方、お願いします。

委員 私は今皆さんのようなお話を聞かせていただいて、また、この資料を見させていただいて、これがこれからの杉並の基本構想の課題を見つけるという形のアンケートが行われて、その結果が出ているのだと思うのですけれども。だとすれば、このままではなかなか、大事なところがやはり抜けているのではないかなと。余り入っていないという世代があるということは、そここのところの意見は取り込むことができないわけですから。ですから、その辺をもうちょっと考えて、満遍なく、その世代の考え方、それから現在の状況、そういうものをもっと調べる必要があるのではないかなというふうに今回考えました。ですから、もう少し、できればその辺のところの資料を出していただければありがたいなというふうに思います。

会長 ありがとうございます。

それでは、次の委員の方、お願いします。

委員 はい。では、私の方から2点、意見といたしますが、ちょっと、事務局なり行政に対する苦情に近いものになるかもしれませんが。

今回、資料を事前にもいただいて、人口構成の変化等を見ておりまして、個人的に首をかしげる部分もございました。具体的には老年人口の推移というところで、今回の資料ですと、20%弱の増加で12.4万人ぐらいという数字が出ておりますけれども、去年の春先に地域医療の関係で出した報告書等ですと、同じ平成47年、この段階では50%以上増えて16万8,000人に達する見込みと、そういった数字も出ておりますので、ともに区は事務局なり庶務としてかかわっているだけだと言われればそれまでですけれども、ちょっと、幾ら推計値とはいえ、これは誤差とは言えない差だと思いますので、杉並区として これも片方が非常に古いデータというなら別ですけれども、やっぱりこの基本構想審議会の中では本日の資料がベースになるということといいとは思いますが、ほかの資料、特に町場といたしますか、そういったところの場合には、そちらの情報をベースに物事を考える人も当然おられますので、こういった資料の間の、何というのですかね、数字の一定の整合性といえますかこういったことについては、もう少し、ちょっと区役所全体として配慮をいただければと思います。

それから、2点目としては職員アンケートの方ですが、途中、年齢構成も分母が少なくというお話もあったかと思いますが、今、区の職員は大体3,700名前後でよろしいですか。そうすると、回答者数221名というのは大体6%程度になるかと思うのですが、基本構想を行政主導でつくってほしいとか、つくるべきだなどは全く思っておりませんが、ただ、職員の人も当然関係者ですので、ちょっと、率直に言って、当事者意識が余りにも薄いんじゃないかというのは感じますので、そのあたりは、ちょっと組織として、もう少し、職員もきっちりと当事者意識を持っていただきたいというのが、この回答者数、提出人数から感じましたので、申し上げておきます。反論といたしますか、ご意見があれば、いただいても構いませんので。

以上です。

会長 ありがとうございます。

事務局、何かありますか。僕、ふと思ったのですが、横浜市役所の職員の半分以上は横浜市の外に住んでいる。だから、今のお話は、そういうことにもかかわって。杉並区の職

員で杉並区の中に住んでいる人はどれぐらいいるのですか。2割ぐらいですか。もっといますか。

政策経営部長 全体でいきますと、約半分ぐらいは。

会長 半分いる。それは、上出来ですよ。やっぱり、そんなこともありますね。

どうぞ。今のご意見に何か。

政策経営部長 よろしいですか。いろんなデータの、今回の基本構想の東京全体の推計の中で、今、杉並区はどうなるのかというところで行いましたので、一番直近のデータでのトレンドを中心にしていますので。先ほどちょっと、企画課長からも申し上げましたが、この二、三年、かなり変わっていますので、その辺の動向で差が出たり、いろいろしているところは非常に申しわけないなと思います。

いずれにいたしましても、先ほど委員からも出ましたが、10年前の予想とどうなるのかということはかなり乖離がありますので、そういったことはお示ししたいと思いますが、あくまでも人口予測というのは、それが、必ずしもそのとおり、10年後、20年後に行くのではなくて、今後のトレンドといえますか傾向はどうなのかというところを見ると、このデータについてはお酌み取りいただければと思います。

それからあと、いろんな方から出た若い方の意見とか、そういったことについては、なるべく私どもとしてできる範囲でやるように努力してまいりたいと、かように考えています。

会長 あと、何かありますか。

(発言を求める委員あり)

どうぞご発言くださいませ。

委員 アンケートということでは、先ほども申し上げたのですが、計画づくりにおいては、2035年の数字を本日見せていただいて、これはそれなりに参考になるのですが、2025年の時点というのが結構大事なのです。特に、後期高齢者ですね、75歳以上が医療とか介護の必要な方が多いので、65歳って、割と元気なのです。社会保障・人口問題研究所も75歳以上の数字を公表しておりますので、それをぜひ使っていただきたいということと、杉並区全体として、人口移動のところでは先ほど申し上げました社会移動がどうなっているかということで、ちょっと古いデータですけども、これが実際に今後どうなるかということで、数字が随分動いていくと思います。それから、杉並区の介護施策や子育て支援施策はどうなるかによって、またシミュレーションをやると変わりますので、このあたりが悩ま

しいところなので、客観データを少し押さえていただければと思います。

会長 どうもありがとうございました。

さっき空き家の話がございました。あれは、ものすごく大事な問題でして、空き家が急速に増えております。ですから、この空き家の問題というのは、安心安全にかかわる問題でして、ただ、空き家がそんなに増えない区と増える区があるんです。杉並は、どちらかというと、危険な方向です。ですから、これも安心安全をこれから確保するという点では、空き家問題はちょっと、勉強していただきたいと思います。

空き家が増えるということは、同時に小さい家主さんの収入が減るわけですし、空き家が多くなると、お年寄りの収入がてきめんに減りますね。ですから、そういう点でも、お年寄りの生活スタイルが変わる危険性がある。

その一番が中野区です。中野区はもう急速に空き家が増えて、人は出ていっており、23区の中では中野区と北区がそうなんです。

それから、比較的、今まで僕たち杉並区がいいなと思っていた区は目黒区です。目黒区というのは昔から品のいい中産階級、大学の先生が多い。人口が減り始めて、子どもが減り始めて。この間、行政の部長さんに聞いたら、目黒区は財政が非常に厳しくなってきたというのです、歳入と歳出で。だから、要するに、年寄りが増えて、人がいなくなって高齢化するということは、歳入が減るわけですから、そして、歳出が多くなるわけですから。そういうことも杉並区では、そろそろ考えていかないといけないかなと思います。

僕は個人的に70歳以上の我々 僕なんかもそうですが、税金を多く払う覚悟でいます。70歳以上は、介護や医療のお世話になることが多いわけですから。それで、ついつい増税と言ってしまうのですけど。すみません、余分なことを言いました。

以上でございます。

どうもありがとうございました、委員の皆様方。本当にいいご意見をいただきましたけど、何かないですか。

委員 そろそろ閉会にしては。

会長 それでは、次、部会の設置について、簡単に言ってください。そろそろお帰りの先生もあるかと思しますので。

企画課長 はい。それでは、資料の6と振ってある一枚物がございますけれども、ちょっとごらんください。

部会の設置の案でございますけれども、1番にありますとおり、これからの議論を深め

るために部会を設定するという事で、設置の案は大きな2番に記載をしてあります。それで、これにつきましては、会長ともご相談申し上げて、以下の3部会ということと、あと、部会間の調整も含めて、一つ、そういった調整を行う調整部会ということで設けたらどうかということです。

第1部会は、まちづくり・産業・環境ということで、記載のようなテーマを中心に。第2部会は福祉と医療ということで、第3部会については教育・子育て・文化というようなことでいかがかということでございます

1番の二つ目の丸のところですけども、部会では総合的な視点からご検討いただき、共通する課題のほか、必要に応じて他の部会に属する課題についても検討を行うことで進めていければどうかと。そして、開かれた運営ということと、そうした他の部会に属する課題についても、必要に応じて検討することで、最後の丸にございますように、部会間の調整、あるいは全体的な方向性の確認といったこともあるので、各部長を中心とした調整部会というものを別に設けたらどうかと、こんなことでございます。

ひとつよろしく願い申し上げます。

会長 これはこの次の総会のときに、具体的に部会にどういう方がお入りいただくかを決めるわけですね。

企画課長 はい。この3部会と調整部会ということでご了解いただければ、次回に向けて、委員の皆様のご希望も聞いた上で、会長と調整したいと思っています。

会長 はい。わかりました。

よろしゅうございますか。

それでは、本日はこれで。

(発言を求める委員あり)

どうぞ、委員の方、どうぞゆっくりとお話してください。まだ時間はたっぷりございますので。

委員 はい。今、先ほど他の委員は非常にソフトにおっしゃったのですが、私は会の進め方として、初めの時間と同時に終わりの時間を適切に設定して、何が何でもそこで確実に終わるという仕組みをとってくださるようお願いいたします。

会長 そうですか。わかりました。

僕は杉並区はたっぷり時間をかけて議論をする区だと思ったので、ついつい時間をかけてしまいました。申しわけございませんでした。

それでは、3回以降は時間を区切って、その中で皆さんのご協力を得て進めるようにします。

(発言を求める委員あり)

ご発言をどうぞ。

委員 皆さん方の各委員の先生方のご意見、とても参考になりました。

ただ、この3部会と調整部会というのは各部会の長が集まって開くということなので、ちょっと部会の中には並ばないのではないのでしょうか。それから、将来構想あるいは計画をつくっていくときには、もう少し具体的なたたき台あるいは提案なりがないと、この部会をつくりますだけで、次回もまた、各委員同士が意見を言っても、非常に散漫になっていくのではないかなという感じがします。

もし次回に各部会で希望をとるとしても、過去の21世紀ビジョンですか、似たような計画があったとしたら、やはりその実績なり反省なり検討課題なりというものを出されて、それぞれの部会の中に、もうちょっと具体的な、杉並区として今後考えたい課題みたいなものを示していただけるとありがたいなと思います。

会長 わかりました。

次回ございますので、今の先生のご意見をお受けしながら、事務局と私の間でそういう材料を出すようにしましょう。

それでは、本日はこれで散会しますが、本日は2時間半使いました。2時間でやめるようにしましょうか。いかがですか。

委員 1時間半で。

会長 1時間半でいいですか。どちらがいいですか。1時間半の方、手を挙げてください。

(該当者挙手)

会長 2時間でいいですか。

(了承)

会長 では、2時間にします。2時間の中でご発言が、僕は全員に聞こうと思っておりま

すので、ご協力よろしくお願いします。

それでは、散会します。どうもありがとうございました。